

1 1	単元名	反対の意味の言葉（反対語・対義語の言葉）
-----	-----	----------------------

※1 反対語・対義語とは、意味の上で互いに反対の関係にある語をいう。⊕⇔⊖のように全く反対の概念を表す語を反対語、⊕⇔⊕のように組になる語を対義語と区別することもある。ここでは、両者を併せて反対語と呼ぶ。

※2 語尾の変化（例・重い⇔重くない）による反対語は除く。









## 1 指導目標

- (1) 反対語を集めることを通して、語彙数を増やすようにする。
- (2) 習得した語彙を生活の場で使えるようにする。

## 2 指導内容

- (1) 挿絵のあるワークシートを使用して、反対語の意味を知らせる。
- (2) ワークシートを使用して、身近で使用頻度の高い反対語を覚えさせる。
- (3) 反対語を生活の場で使えるようにする。

## 3 指導計画

時間	主な学習内容	指導上の留意点
1	<p>○本時の学習内容を知る。</p> <p>○ワークシートA(48 ページ)を見せ、反対語の意味を知る。</p> <p>○ワークシートAに反対語を記入する。   は⊕⊕⊖。  は○○○。]   のあしは⊕⊕⊖。  のあしは○○○  ○。] …以下略</p> <p>○記入されたワークシートAの各項について読みながら反対語の確かめをする。</p> <p>○ワークシートBに反対語を記入する。   ⊕⊕⇔  ○○○]  [  ○○⇔  ⊕⊕ ] 以下略</p> <p>○記入されたワークシートB(49 ページ)の各項について、読みながら反対語を確認する。</p> <p>○学習した反対語を用いて、簡単な文を作り、発表する。</p>	<p>・反対語の意味が分からない場合は、具体例で分かるまで説明する。</p> <p>・正確な反対語でなく広義に解釈した反対語でも可とする。</p> <p>・ワークシートAに記入できない(分からない)場合は、言葉で教え、記入させる。</p> <p>・ワークシートのABに記載した以外で、知っている反対語があれば、言わせる。</p>

<p>2</p> <p>○前時に学習した反対語を確かめる。</p> <p>○ワークシートC (91 ページ) のやり方を説明する。</p> <p>○ワークシートC (20問) に反対語を記入する。</p> <p>①暗い⇔○○○○ ②深い⇔○○○</p> <p>③太い⇔○○○ ④前⇔○○○</p> <p>⑤大きい⇔○○○○○ ⑥重い⇔○○○</p> <p>⑦右⇔○○○ ⑧売る⇔○○</p> <p>⑨表⇔○○ ⑩多い⇔○○○○○</p> <p>以下略</p> <p>○学習した反対語を用いて簡単な文を作ったり、会話の中で使ったりする。</p> <p>○他に知っている反対語を発音したり、書いたりして語彙を増やす。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートA、Bに比較すると難易度が高いため、分からない場合は具体例で説明し記入させる。</li> <li>・平仮名でも可であるが、漢字で書けることにも触れる。</li>   <li>・動詞、名詞、形容詞の品詞ごとに指導する方法もある。</li> <li>・学級や生活の場で多く使わせる。</li> </ul>
--	--

## 4 指導のポイント

- (1) 平仮名と片仮名の読み・書きを習得した児童・生徒を学習の対象にする。
- (2) 校内の様々な生活の場で反対の意味の言葉を使わせる。
- (3) 片仮名や漢字の学習と関連付ける。
- (4) 動詞、名詞、形容詞等の品詞の指導にも活用させる。

## 5 期待される成果等

- (1) 語彙が増え、作文や会話に生かすことができる。
- (2) 日本語の学習意欲が高まる。





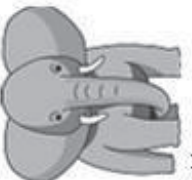

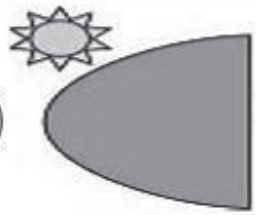







## 6 補充・発展的な学習課題例

- (1) 動詞、名詞、形容詞等の品詞に分けて学習させる。
- (2) 母語の反対語を想起させ、日本語と対比させながら学習させる。
- (3) 文字と絵を併用した反対語表を個々に作らせる。

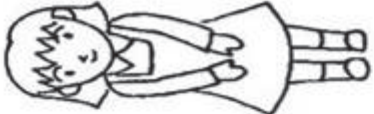









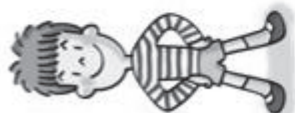


## 7 実践例

- (1) スペイン語を母語とする児童  
 片言の日本語を話す程度であった児童が、ワークシートA・Bを学習することにより、他にも多くの反対語を見付け出せるようになった。
- (2) 英語を母語とする児童  
 ワークシートA・B・Cの作業をすることで、英語と対比しながら日本語を学ぶようになった。

はんたいの ことばを かきましょう (A) なまえ

①	 きりんのあし ながい	⇔	 たぎ かるい
②	 かば おもい	⇔	 さいのあし 
③	 ぞう 	⇔	 ねずみ ちいさい
④	 やま たかい	⇔	 やま 
⑤	 ライオン 	⇔	 ひつじ よわい
⑥	 うま はやい	⇔	 かめ 
⑦	 なつ あつい	⇔	 ふゆ 

はんたいの いみの ことばを かきましょう (B)

①	 ま え	 ○ ○ ○
②	 ○ ○	 し た
③	○ ○ ○ 	み じ か い 
④	 み ち	 ○ ○ ○
⑤	 お お い	 ○ ○ ○ ○
⑥	 た つ	 ○ ○ ○
⑦	か る い	 ○ ○ ○